

秋の好天が続いた10月。大地の丘は秋真っ盛り。大地の秋の訪れ。大地の入り口のリンゴが色づきます。下に覗く田んぼが黄金色に色づきます。稲刈りをします。栗が落ちます。アケビが実ります。ドングリが落ちます。栃の実を拾います。落ち葉がたまります。脱穀をします。薪運びをします。そのおやつが焼き芋です……。これが大地の風物詩。文字通り、子どもたちはこんな暮らしを遊びの中でしています。季節を味わわせるといったものではなく、自然に心に刻まれていくものだと考えています。私達が大人になった時、想い返せるものは、日常の風景だったり、匂いだったり、些細な何気ないシーンだったり。それもお仕着せだったり、行事だったりするものではなく、自然な気負いない日常のものだったりすることが多いような気がします。そんな日常が、10月は、紅葉や実りという絵画的に変化の見える季節、1年中で一番変化が激しい魅力的な季節かも知れませんね。

今、この童を書いている場所は、この週末の子ども祭り「ゆったり瞑想カフェ」となるみずぐるま2階のカウンター。志賀高原からの朝日を受け、見事な紅葉に包まれた大地のスロープ世界を見ながら幸せな気分。スロープには、子どもたちの残像が常に残っています。まさに、いつも妖精たちが木登りをしたり、転げまわったり、草花で遊んでいたりしている光景が見える場所です。今、最高の美しい季節。素敵なお祭りをまだまだ満喫していきましょう。



【ギャップ・イヤー】

ギャップ・イヤー（英: gap year）とは、高等学校卒業から大学への入学、あるいは大学卒業から大学院への進学までの期間のこと。英語圏の大学の中には入試から入学までの期間をあえて長く設定して（初夏卒業・秋入学）、その間に大学では得られない経験をするのが推奨されている。この時期にアルバイトなどをして今後の勉強のための資金を貯める人も多い一方で、外国に渡航してワーキング・ホリデーを過ごしたり、語学留学したり、あるいはボランティア活動に参加する人も多い。

長男の雄飛が世界一周をする前後に、初めてこの言葉を聞いてなるほど、これはいいなと思ったことを思い出しました。この期間に、本当に自分のやりたいことを見つけること。そういえば、大学卒業時に行ったオーストラリアバイク旅行でも、キャンプ地で出会う人たちは、ほとんど自分の道を見つけて、これから進学する社会人やギャップイヤーの人たちが多かったです。それに刺激されて、卒業後の自分の道も大変換したのですが。

「今の学力では、この位の大学へ行けるみたいだから」「もうちょっと偏差値をあげれば、このランクの大学へ行ける」「国公立の入学人数を増やさなければ」などと高校に入ったばかりなのに進路の話がある昨今。「将来、何をしたいか」「どんな人やどんな人生に憧れているか」「目の前の何に燃えたいか」などの事は論外の雰囲気。これが4人の子どもも育ててきた中での現実。妻と先日しみじみと「そう言えば、結局うちの4人の子ども達、誰も大学へ行かなかったね」と。

長男は、心理学をやりたいと大学へ行ったが、それよりも更に燃えるものを見つけ、未練なく大学を辞めて、ぶれなく生きているし、娘は、高校の時から「成績や偏差値だけで、私は目的もなく大学や進路を決めない」と言っていたし、次男は、周囲や学校から進められて推薦で大学へ行ったが、自分で燃えるように希望して進学したのではないので、こちらも未練なく退学。ギャップイヤーを経て、自分で進路を決めて来年から専門学校へ。末っ子は、大学野球を期待されていたが、周囲を啞然とさせる位、野球への未練もなく、あっと驚く鍼灸師の道を選択。高校でもトップで進路を決めてしまった。（ギャップイヤーを楽しませてやりたかったが、どうなるか）

私たちの時代。平均的に20歳前後で就職して、60歳前後で退職。その間、家族を持ち、家庭を持ち、マイホームを持つ人生だったように思います。自分も、高校時代は勉強もしく、青春を満喫しましたが、高3になり、周囲が大学へ行く雰囲気だったので、大学へ行けば将来会社へ就職できるという安易な考えだけで、（将来、何をしたいかなどと考えず、モラトリアムか大学で考えればいい）進学しました。それだけに、卒業後に、ギャップイヤーを経験したし、更に、30歳を過ぎて、起業ギャップイヤーを経験し、34歳で大地を開設して、今に至っています。今のところ、悔いがない幸せな人生を満喫しています。

現代。平均寿命が延び、30歳前後までで、大好きな道・得意な事を生かしながら探究し、就職又は起業して、70歳前後まで得意な事をやる。マイホームや物は必要最低限でシェアしながら、好きな人達と生きていくような。我儘にギャップイヤーを数回楽しんできている親だから、子ども達も、ギャップイヤーを選択するのは当たり前だし、親も20代は、自分道を探求する時代だと考えています。

更に付け加えれば、私たちの時代、健康に気を付けて、身体を壊さないように頑張ろう。現代では、精神的な健康を維持するために、鬱になったり引きこもりになったりしないように、頑張ることはやめよう。

大好きな事、得意な事をやり続けているときは、時間も気にせず、これをやったからどれくらい給料をもらえるなんてことは眼中にありませんね。ライフワークを見つけるキーワードは「24時間やり続けてもいいほど好きな事」「お金を払ってでも、自分にやらしてほしい事」と学んだ事があります。大好きな事、得意な事は、苦にもならないし、他人から見れば頑張っているように見えることも、当の本人は、ただただ楽しくやっているだけ。ライフワークに出会い、見つけ、暮らしていけば、鬱になったり、憂いたりすることとは疎遠になるし、また、持つことを少なくすれば、更に心配事もなくなるし、自分でできるだけ身の回りのことを自分で解決（自給自足も含み）していく暮らしをしていけば、すなわちシンプルに暮らす事が、現代では精神的健康を保つことにつながると思います。

先日、友人が学力が世界一で小さいながら最高の文化国家を形成していると言われているフィンランドの教育についての話をしてくれました。ギャップイヤーを国を挙げてシステム的に応援しているらしい。自分の道を見つけるお手伝いを国を挙げてしているのだが、その内容は受験や勉強と言う尺度での応援ではないらしい。よって、大学入学者の4分の1が、25歳以上であるということ。もちろん、この国にはテストはない。こう考えると、日本の現状のシステムや価値観に首をかき上げてしまふし、これからの教育も、大きな転換点になっていくと思われまふ。

そういうことになると、もしかすると、35年ほど前にギャップイヤーを経験し、その後も起業ギャップイヤー（開園のためにノウハウを学ぶ日雇いをしてきた時代）も含めて2度も経験してきた青ちゃんは、時代の最先端！！更に隙あらば、山小屋に行ったり、放浪したいと真剣に考える自分は、超最先端！！いや、単なる浪人でしょ。（外野の声）皆、大いにギャップイヤーに出よう！！発酵（ぼんやり味わいを作る期間）イヤーを楽しもう！！